

岩出市 地域おこし協力隊

手引き理解ソング版

※本資料は「岩出市地域おこし協力隊手引書（観光分野）」の理解を幫助するためのものです。

対象：行政職員／協力隊／地域団体・住民

1. 制度そのものソング「せーの！」



コンセプト

歌を1回聴けば制度の輪郭が説明できる制度解説アンセム。
協力隊を知らない職員・住民・関係者が、耳から自然に制度理解できる入口にする。

込めた思い

「協力隊＝何となく良さそう」で止まると、誤解や期待過多が起きやすい。
だからこそ、制度の骨格を明るく・短いフレーズで反復し、「共通言語」をつくる曲にした。

歌詞

(せーの！)
“協力隊”って何？ 3分でわかるよ！

都会の暮らしから 地域へ移住
新しい場所で 暮らしをはじめ
自治体から 委嘱または任用
地域の一員として 動き出す

やることは 地域協力活動
課題を見つけて 解決へ伴走
情報発信 イベント 商品づくり
人と人をつなぐ 仕組みづくり

ひとりで背負わない チームで進む
行政・地域・隊員 三者で協働
ミッションを定め 進み方を整え
小さく試して 育てていく

地域おこし協力隊
“移住して、地域で、活動する”
まちの課題に 挑戦する人
自治体と一緒に 未来をつくる
任期は最長3年
その先は 定住・起業・就業へ
続くストーリーを 支えていく制度
地域おこし協力隊

まずは まちを知る 人を知る
挨拶まわりで 地図を描く
できること・できないこと 線を引き
信頼を積み上げ 協力を増やす

活動は“自由”じゃなく“目的あり”
成果は数字だけじゃなく 関係の質
記録して ふり返り 次に活かす
続ける仕組みが 力になる

困ったときは 相談していい
一人の正解より チームの最適
地域の声を聴き 行政が支える
挑戦が根づく 土をつくる

地域おこし協力隊
“移住して、地域で、活動する”
まちの課題に 挑戦する人
自治体と一緒に 未来をつくる
任期は最長3年
その先は 定住・起業・就業へ
関わり続ける 未来へつなぐ
地域おこし協力隊

2.行政職員向けソング「伴走バイブス」



コンセプト

“受け入れ”ではなく“運用”として腹落ちさせるファンク×ラップ。

担当者が「伴走者」としての覚悟と技術（線引き・透明性・共有）を、ノリで記憶できるようにする。

込めた思い

協力隊制度は、隊員の努力だけでは回らない。運用側（行政）の品質＝制度の成果。「守るためのルール」「挑戦を育てる線引き」というメッセージを、堅い研修資料ではなく、身体に入るリズムで届けたかった。

歌詞

受け入れじゃない、運用だ。
伴走は“愛”で、線引きは“技”だ。

伴走！ 断層じゃなく伴走！
線引き！ 前向き線引き！
透明！ 運用は透明！
共有！ 迷ったら共有！

まずミッション 曖昧だと摩耗
期待が膨張 現場は消耗
だから言語化 目的を強化
“やる／やらない”ここから評価
KPI 追うのは縛りじゃない
道しるべ 迷子にしない
週次で小傷 月次で修復
四半期で軌道 ズレを是正し即復

近すぎると依存 遠いと孤立
距離感ミスると 全部が不利
“便利屋化”は 善意で起きる
頼られ体質 でも線は引ける
お願いOK／NG 言える環境
言いにくい空気 そこが難所
行政が盾 地域が輪
隊員が挑戦 この三者が鍵だ

伴走！ 断層じゃなく伴走！
線引き！ 前向き線引き！
透明！ 運用は透明！
共有！ 迷ったら共有！

RACI 役割 見える化しよう
“誰が決める？”を 曖昧にしないと誓おう
トラブルフロー 先に用意
起きてからじゃ遅い それが定理
個人情報 機密 扱いは厳
SNS 火種 芽のうち鎮
“発信”は武器 同時に危機
だからルールは 自由のキー

勤務管理 会計年度任用の規律
ここを曖昧にすると 全部が崩落の比率
ハラスメント 予防と初動
“相談できる”空気が王道
抱えない文化 属人をやめる
担当が変わっても 回る仕組みをつくる
困難は共有 解像度上げる
一人の正義より チームで整える

守るために 縛るんじゃない
挑戦の余白を 残すため
“ルール×信頼”で
続く未来を 設計する

地域の期待 大きいほど丁寧
説明の手間が のちの安定
最初の3か月 紹介と理解
無理な押し付け それは誤解
伴走は“見守り”+“整備”
線引きは“拒否”じゃなく“合意”
記録→ふり返り→改善 この循環
続けた先に 定住・起業・就業の転換

伴走！ 断層じゃなく伴走！
線引き！ 前向き線引き！
透明！ 運用は透明！
共有！ 迷ったら共有！
(もういっちょ！)
伴走！ 線引き！ 透明！ 共有！
隊員の挑戦 育つ土壌！

3.協力隊員向けソング「スタートアップ3か月」



コンセプト

“最初の3か月を乗り切るためのメンタル&行動ガイド”を、前向きに背中押しするシンセポップ。

新天地で孤立しがちな隊員が、継続できる状態をつくる。

込めた思い

協力隊は「熱量がある人ほど燃え尽きやすい」。だから、挑戦を止めないために、最初の設計(暮らし・関係・相談)を肯定する曲にした。“頑張り”だけでなく、“続け方”を渡したい。

歌詞

知らない名前の 店のドア
挨拶ひとつで 世界が変わる
まずは暮らしを 整える
焦らなくていい ここがスタート

出会う 聴く メモをする
強みを棚卸し 形にする
週ごとに振り返り 月ごとに更新
“いまの自分”で 進めばいい

最初の3か月は 地図づくり
キーマン 景色 言葉の温度
迷ったら相談 それは強さ
ひとりで抱えないで
発信はていねいに やさしく正確に
炎上より 信頼を積む
ここで育つ わたしの挑戦

頼まれごと全部 背負わないで
ミッションから外れたら 線を引こう
あなたを守る 味方がいる
違和感は小さいうちに 共有しよう

不安は弱さじゃない
続けるためのサイン
深呼吸して また一步
“関わり続ける未来”へ

最初の3か月は 地図づくり
今日の小さな成功 数えよう
迷ったら相談 それは強さ
ひとりで抱えないで
まちの魅力を 見つけて磨いて
あなたの言葉で 届けよう
ここで育つ わたしの挑戦

4. 地域向けソング「ちょうどいい距離で、いっしょに」



コンセプト

地域に“応援の仕方”と“距離感”を伝える、温かい民謡ポップ。
住民側の不安(何を頼める? 迷惑?)や期待過多をほどこき、協力が生まれる土壌をつくる。

込めた思い

地域協力は“善意”だけだとズレル。
だから、地域に「協力隊とどう関わればうまくいか」を、命令ではなく歌のやさしさで届けたかった。
「歓迎」と「無理させない」を両立させる曲。

歌詞

若い人が来たから 何とかして、じゃなくて
“こうしたい”を 言葉にしてみよう
写真を撮って 店を紹介
一緒に考える それが嬉しい

最初の3か月は 紹介の季節
歴史も 人も 行事も
ゆっくり教えてあげよう

ちょうどいい距離で いっしょに
否定より 応援と提案で
お願いできること できないこと
ちゃんと分ければ うまくいく
困ったときは 市役所へ
みんな守って つないでいく
協力隊は 未来の仲間

私用の手伝い 長時間拘束
それは違うよ 重くなる
もし言いにくいなら 間に入る
行政がちゃんと 調整する

誤解は誰にでも 起きるもの
だからこそ 丁寧に
目的 期限 作業量
伝え方で 変わる未来

ちょうどいい距離で いっしょに
地域も隊員も 笑えるように
お願いできること できないこと
ちゃんと分ければ うまくいく
困ったときは 市役所へ
みんな守って つないでいく
協力隊は 未来の仲間